

同窓会

の

チカラ

同窓会のための情報誌

2021

特集● 新型コロナウイルス流行下の同窓会

- ・オンライン同窓会総会：九州大学経済学部同窓会・東京支部
- ・オンライン総会の導入：中央大学杉並高等学校杉朋会（同窓会）
- ・現役学生を護るために：愛知産業大学校友会（同窓会）
- ・若い同窓生を救え!!：岩手県立盛岡第三高等学校鵬同窓会・関東支部

リレー連載 ● 私と同窓会

- ・林 俊行（下関市立下関商業高等学校・一般社団法人下商同窓会）

紹介● 同窓会活動紹介

- ・学びの心を育む：滋賀県立虎姫高等学校同窓会・東京姉水会
- ・若手会員支援の先に：熊本県立済々黌高等学校・済々黌同窓会

わが学び舎

- ・山口県立山口高等学校同窓会

Our Proud

Vol. 13

山口県立山口高等学校記念館（旧制山口高等学校講堂）

1922年（大正11年）竣工 木造2階建て／国登録有形文化財（建造物）

オンライン同窓会総会

九州大学経済学部同窓会・東京支部

リアルの世界と補完しあう オンライン会議のあり方を求めて



●九州大学経済学部同窓会・東京支部では、二〇二〇年初めから世界を揺るがせている「新型コロナウイルス」の蔓延に伴い、同窓会活動の運営にいち早くオンライン方式を導入したという。現在主流となっているこの新たな方式の具体的な展開と、見えてきたオンライン方式の長所短所、またそれへの対策などを東京支部の事務局長・吉元利行氏に伺った。

一般に、どちらの同窓会でも、同窓会員と母校のための各種の行事やイベント、またキャンペーンや支援活動などは年中行われています。そしてそのコアとなって活動するのが理事会ですが、新型コロナウイルスの影響によって、例年の運営方法がそのまま使えない状況が発生しているのはご承知の通りです。企業をはじめとする組織や団体では、事業の基本であるコミュニケーションが思うようにとれず、オンラインによるシステムを導入するなどして対応していますが、電話のように使いこなすというところまで一般化しているとは言えず、肝腎の活動の推進との間に苦慮している現実もあると聞いております。

必要から生まれた

オンライン会議の開発

九州大学経済学部同窓会・東京支部では、このオンラインシステムをひとつの手段として、二〇二〇年度の少し前あたりから積極的に運用を開始しました。運営の拠点には有楽町駅前の有楽町ビル内「九州大学東京オフィス」です。ここは九州大学の東京の窓口で、学部ごとに組織されている各同窓会もここを拠点として活動しています。

二〇二〇年、新型コロナウイルスの拡大に伴い、四月七日に緊急事態宣言が出されたことを受けて、経済学部同窓会は「ズーム」によるオンライン理事会を開催しました。と言いつても、これまで学士会館で行ってきた会議では、仕事で忙しい人が多いこともあって直前での欠席なども結構ありました。そこで、数年前から若手理事を中心に同窓会のイベントの企画の内容を話し合ったり、直前に当日の進行や役割分担等の協議には、オンライン参加も実施していました。若手理事の中には、国内外で起業したり、ベンチャー企業で活躍する人もいて、企画の中心的役割を果たしていましたので、海外などに出張中でも、会議に参加する必要があったのです。当時は、ズームはまだなく、スカイプやスマホのビデオ電話などを使っていました。そういった経緯とともに、六月頃には、支部長（三井住友火災海上保険の泰元会長）ら幹部もズームを使い始めていたということもあり、七十五歳以上の理事を除き今回の理事会へのオンラインシステム導入の敷居はさほど高くなかったと思います。

東京支部の同窓会活動

同窓会は、経済学部も含めたどの学部でも年々会員の高齢化が進んでいて、将来に対する危機感も少なからずあります。ただ経済学部同窓会では、以前から同窓会活動の入り口として毎年福岡で「卒業祝賀会」東京で「新卒歓迎会」を開催していき、その際、東京支部の各種活動をアピールし、連絡先リストを作るなどしております。歓迎会への参加者は例年十五人〜三十



人程度です。その甲斐があつて、現在の同窓会では若い男女の卒業生が多数参加してくれるようになりました。

九大の中で最も活発に活動しているのは経済学部と法学部で、両者はもともと交流もあり、同窓会組織もしっかりしています。そこでこの二つの組織が中心となって、二〇一八年の九大創立百周年を節目に「九州大学東京同窓会」を発足させました。これは各学部同窓会を横断し、さらに運動サークル等の「同窓会」をも含めた、いわば「オール九大・イン・東京」です。発足以降、この「東京同窓会」では、主に全学に関係する行事（賀詞交歓会、サマーフェスタなど）の企画・運営、学生の就活支援活動などを行っています。

こうした新しい形が生まれ、更なる発展に向けて歩み出したところへ、ご案内のように二〇二〇年、世界中を「新型コロナウイルス」が席卷し、社会の仕組みそのものに強い影響を与え続けながら今日に至っています。当然のことながら、大学や同窓会もこれと無縁ではいられません。



●連絡先 九州大学経済学部東京支部 事務局
〒100-0006 東京都千代田区有楽町 1-10-1 有楽町ビル 6F
e-mail : t29yoshimoto@aol.com
URL : https://www.facebook.com/
九州大学経済学部同窓会東京支部 -263785903633174/



吉元 利行（よしもと・としゆき）氏（S53 経済学部卒）
経済学部同窓会東京支部・事務局長／東京同窓会・事務局次長

2020 オンライン新卒歓迎会の
運営ルームとスタッフ
（九大東京オフィスの会議室）

多人数が参加する オンライン開催運営の試み

経済学部同窓会では、オンラインシステムによる理事会開催という非常事態のなか、二〇二〇年四月開催予定の「新卒歓迎会」を中止し、六月に初めて開催された「九大東京同窓会の新卒歓迎会」に合流することになりました。といっても全員顔を合わせて乾杯する、というようなものではなく、ズームを用いたオンライン歓迎会です。参加者は四十数名で、そのうち新卒が二十五六名でした。

オープニングは法学部OBの佐藤住友生命会長の開会挨拶で、次いで工学部OBの若田光一宇宙飛行士の乾杯のあいさつで懇親会が始まりました。数年前に卒業したOB OG二名の絶妙な司会で、参加者は、自宅等から、ビールを飲みながらリラックスして臨みました。

最初の全体参加企画では新卒者の質問に先輩が答える二〇分ほどのコーナーを設け、その後、参加者を八つの「部屋」にアトラダムに分類し、三回メンバーを入れ替えて意見交換をしました。一回目は「無テーマ」、二回目はチャットでみんなの意見を聞いて、テーマを「失敗談」とし、三回目は「新卒者は今何をすべきか」をテーマに話し合いました。かなりの人数を八つに分け、更に三度シャッフルするという複雑な作業でしたが、当初危惧していた混乱もなく、ズーム運営者の巧みなさばきで、スムーズな進行が実現しました。

またこれと同様に、経済学部同窓会が毎年開催してきた「七夕総会」も中止となり、代わりにズームを使用した「七夕交流会」

を開催、若手理事と支部長などが九大東京オフィスに集まり運営に当りました。他は自宅からの参加です。この時は支部長とANAの伊東会長の対談の後、四つのブレイクアウトルームに分かれての交流を三回にわたり行いました。これはオンラインとオフラインをジョイントした初めての交流会で、準備不足もありグループ分けや接続に手間取る等の不手際もありましたが、運営の中心である若手理事の頑張りでなんとか無事開催できました。

毎年八月に開催され、三百から三百五十人も集まる東京同窓会最大のイベント「東京同窓会のサマーフェスタ」も新型コロナウイルスの影響でオンラインでの開催となりました。ズームを用いるのはこれまでと同じですが、この会では全体行事は参加者全員一斉に参加し、ブレイクアウトルームは五十部屋を用意、少人数での交流を基本としました。各学部の、新卒から三十歳代までの若手を中心に企画を練り「同じ会場に居なくても、どうしたら一体感を感じられるか」の工夫を行いました。またオンライン開催という利点を活かし、香港、マニラ、ミャンマー、オーストラリアのパス、ワシントンDCから卒業生がオンラインでコメントを寄せるなど、海外との連携、および本拠地・福岡との連携を進めることができましたと思っています。

オンラインシステムの課題と利点 見えてくる新たな可能性

にわかにクローズアップされた観のあるオンラインシステムですが課題も多くあります。まずシステムを構築・維持・運営するための資金の問題です。企業と違い会

員の会費で成り立っている同窓会では、このハードルが極めて高い。次にITに強くない年配の会員の足が遠のきかねないということ。実際に年配者のオンラインでの参加は少ない。運営面では、ブレイクアウトルームへのメンバー配置はアトラダムなので、特定の人と話し続けることは出来なくはないが、皆がそれをすると取捨がつかなくなる、などの課題があります。

客観的に見て、オンラインの力はリアルに及びません。対面でなら難なく伝わることも、オンラインでは電話での意思疎通と似た難しさがあります。これは通信環境がどれほど発達しても、おそらく変わらないでしょう。ズームやスカイプなどは、新型コロナウイルスの出現で急激に広まった新しいコミュニケーション手段ですが、しかしリアルに比べ隔靴搔痒のもどかしさが残るのは如何ともし難い。もっとも、これはオンライン時のルールとかマナーなどの「約束事」が確立するまでのことなのかもしれません。

一方で、オンラインでの会合には、リアルには無い大きな利点があるのも事実です。たとえば物理的に同じ場所にいなくても、同時に同所に居るとほぼ同じ情報を共有することができます。これがどのように社会に影響を与えるかはまだはつきりしませんが、漠然とであれ、そこに「可能性」を感じる人も多いでしょう。

同窓会という、人と人との繋がりを中心に据えた「リアルの世界」を扱う組織が、思いがけずも新型コロナウイルスの影響で、関わることになったこのオンラインという世界に、同窓会活動も大きく変化していくだろうと感じています。■



CHUSUGI
CHUO UNIV. SUGINAMI HIGH SCHOOL

オンライン総会の導入

さんぼうかい 中央大学杉並高等学校杉朋会 (同窓会)



●連絡先

中央大学杉並高等学校・杉朋会事務局
〒167-0035 東京都杉並区今川2-7-1
中央大学杉並高等学校内
URL : <https://sanpoukai.org>
E-mail : info@sanpoukai.org

新型コロナウイルス流行下での 新しい会議集会の形を探る

●中央大学杉並高等学校杉朋会では、令和二年の新型コロナウイルス流行の下、総会や理事会などの開催に当たって、感染防止を目的としてWebを用いた会合を開いてきた。いまだ流行終息の見通しが立たないなかで導入したオンライン総会の実際を、中心となって担ってきた執行部の方々に伺った。

Web会議ツール「Zoom」の導入は、令和二年三月に開かれた理事会で、新型コロナウイルスの影響が社会全体に及び、このままでは従来の形での総会の開催は困難であろうという意見が出されたことに始まります。このシステムとツールは企業や団体などで広く採用されていますし、使用経験者も多く、もともと多人数での使用を前提としていますので、我々の目的に適合していると判断したわけです。それで四月十八日に十名でリハーサルを行い、機器の使い方などを確認して二十五日に理事会の本番を行いました。会議は二時間で参加者は十名。進行はスムーズだったと思います。その際感じた良い点は、会議で話題となっていた事柄の資料等をその場で送ったりできることです。同時に画面の共有、情報の共有ができるということですね。それと当たり前のことですが、参加の場所を問わないということです。この理事会の試験的会議以降、杉朋会の打ち合わせや会議などはこの「Zoom」を用いて行われました。

総会は八月二十九日、出席者は理事十三名を含め、計二十五名で、開催時間は一時間です。何分、初めての取り組みですから総会に向けてのリハーサルは念を入れて

二度行いました。また本番では、コロナ前と出席者の顔ぶれが変わりましたが、これは個々の方々の機械やシステムに対する慣れの問題などもあり、やむを得ないことだったと思います。その一方で、出席者の中には「Zoom」での運営を別の分野への応用の参考にしたいとする方もいました。結果として、総会そのものは成功だったと思います。

コロナ以前には、例年、総会は母校地下の多目的教室で、その後の懇親会が同じフロアの食堂で開かれていました。懇親会には退職した先生方をお呼びしたりして五十人ほどにもなり、大いに賑わったものです。令和二年は初めてのオンライン総会になったわけですが、さすがに懇親会は中止です。本来なら同窓会員なら誰でも参加できる総会ですが、今回は予め希望される方のみ限定参加という形になり、一般に広く公開するなどのことはしていません。現在では「YouTube」などにアップして公開する方法もありますが、そういう対応をするには時間も費用もそれなりにかかりますから、実現は難しいでしょう。

ただこのオンライン総会の成功を見て、バスケット部などでは「オンラインOBOG会」を十一月に開いています。参加者は十名で、「YouTube」のライブと「Zoom」でのトークという構成。これには四五十名ほどの「観客」もいたようです。また母校の緑苑祭（文化祭）は全てオンラインで行われました。

今後の同窓会の各種会合については、もちろん新型コロナウイルス次第ではありますが、出来たら以前のような直接対面しての

ものに戻りたいとは思っています。しかし現実には、当分の間はオンライン会議になるでしょう。いずれにしても、今回のオンライン総会に向けての試行錯誤のプロセスは決して無駄ではないと思います。この一年近くの模索の中で、「クラブOB会」への展開など、見えてきたものも確かにあります。もちろん、オンライン会議だからこそできることもあるでしょう。今年のこの経験を活かして、次の総会ではもう少しうまくできるようになるように努めたいと思っています。



左：野崎 瑞（のぎき・みずほ）氏（高14）
杉朋会 会員担当
中：滝下 晴夫（たきした・はるお）氏（高12）
杉朋会 会長
右：原田 和彦（はらだ・かずひこ）氏（高17）
杉朋会 副会長

現役学生を護るために

愛知産業大学校友会 (同窓会)

大学と同窓会の連携による 学生への経済的支援



●連絡先
 愛知産業大学
 〒 444-0005
 愛知県岡崎市岡町原山 12-5
 URL : <https://www.asu.ac.jp>
 E-mail : jim@asu.ac.jp

●愛知産業大学の同窓会組織である校友会では、昨年来の新型コロナウイルスの蔓延の影響で、経済的に困難な状況に陥った学生に対し、大学と足並みを揃えた支援活動を展開している。大学・同窓会がこの困難な時期をどう切り抜けるか、初めての経験の中でさまざまに模索し、現役学生の生活と学業を守るために活動している。その活動の具体的な内容について、校友会と大学で直接活動に尽力されている方々に伺った。

長引く新型コロナウイルスの影響は、社会の全ての層に及んでいます。大学もまた例外ではありません。その中でも学生に対するダメージはことのほか大きく、これまで生活の経済的補助の道であったアルバイトの口がなくなり、収入が断たれるという厳しい状況が既に一年以上に渡って続いています。外出禁止や三密を避けるなどの要請の下、大学の授業もこれまでの対面からリモートへと移行しましたが、そのための設備は学生自身が用意しなくてはなりません。また本学に在籍する留学生も同じように苦境に立たされています。

こうした状況を踏まえ、本学では以前からある「経済支援奨学金」の制度を適用することにしました。これは、迅速な対応を求められている今、新しい制度を設計・創設するよりも現在ある制度を柔軟に運用したほうが、制度の本来の趣旨である「困窮した学生への支援」を速やかに行なうことができるかと判断したためです。その結果、今回は学生支援の拡大運用として一人十萬円の現金を支給することとしました。

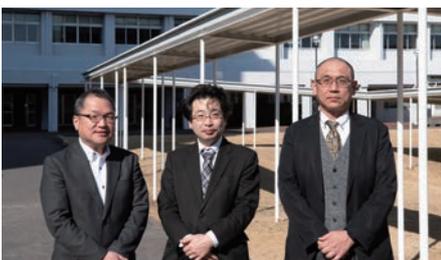
ただ今回のコロナ禍での取り組みはあくまでも臨時の措置です。ともかくこうした方針が決定し予算措置もしたところに、校友会から学生支援のための協力の申し出があり、最終的に校友会の支援金と大学の支援金を一本化することといたしました。

経済支援実施の流れは以下の通りです。まず第一に「こういう支援制度がある」という告知を保護者宛に郵送します。支援を希望する保護者はメールで申請をします。以下やりとりは、手続きと支給を迅速に行うため全てメールで行います。

その結果、留学生を含む学部生一〇〇〇名のうち十萬円給付の申請があったのは全部で百二十二名で総額一、二二〇万円となりました。これに授業料半額給付者が十六名で五百七十七万八千円、全部合わせますと一八〇〇万円余となり、当初の大学の予算一、一七〇万円と校友会からの寄付金六百五十萬円の併せて一、八二〇万円の中でおさまりました。今回はあくまで臨時の措置ですが、状況次第では再度の支援の可能性はあります。

校友会としては、このコロナウイルスの蔓延の下で何かできることはないか模索していましたが、大学のコロナ対策支援の動きを見て大学のプロジェクトに合流する形で行動を開始しました。以前から災害時の支援活動について議論していたこともあり、今回の学生支援についても話はスムーズに進みました。ただ校友会の役員は平日に時間がとれませんので、今回の学生支援実務に関しては大学に一任することになったというわけです。

今回のような思いがけない出来事や、それに対する支援活動は今後も有り得ると思います。中止となった学園祭「原山祭」では大学の協力を得てネット中継で新しい展開を図るなど、これまで校友会は常に大学と連携し協働してきました。今回、学生支援活動に協力できたことは校友会として非常に嬉しいことですし、原山祭のように、コロナ下でも工夫とアイデア次第で表現や活動を展開できることも証明できました。二十一年度も六百五十萬円の寄附金の手当てはできるでしょうが、それ以降は不透明です。校友会としては、そうした経済的なことと共に、校友会らしいお金以外の支援のあり方も模索していきたいと考えています。



左・計屋 昭生 (はかりや・あきお) 氏
 大学事務局長／教務・学生部部长
 中・廣瀬 伸行 (ひろせ・のぶゆき) 氏
 校友会常任役員・第3回卒業生
 右・落合 英治 (おちあい・えいじ) 氏
 大学総務・広報部部长





若い同窓生を救え!!

おおとり
岩手県立盛岡第三高等学校鵬同窓会

関東支部

●連絡先

岩手県立盛岡第三高等学校鵬同窓会 関東支部事務局 (担当: 安保 亮)
〒190-0034 東京都立川市西砂町 4-35-10
TEL : 090-9314-5290
URL : <http://moriokasankou.com>
Twitter : @ootori_kantou
E-mail : ootorkantou@gmail.com

新型コロナウイルスの流行により 経済的困難に直面している同窓生への支援活動

●岩手県立盛岡第三高等学校鵬同窓会 関東支部では、新型コロナ流行に伴って就職先やアルバイト先を失うなどして生活に困窮している同窓生を対象に、経済支援活動を行っているという。同窓会として一歩踏み込んだこの活動の実際と今後について、同窓会より本欄に寄稿していただいたものを掲載いたします。

▼関東支部コロナ支援委員会立ち上げ

活動のきっかけは、最初の緊急事態宣言が出された令和二年四月下旬。学費や生活費が払えず退学する学生が増えている、というニュースを見た一人の同窓会員からの問題提起でした。早速リモートで何度か幹事会を開き、関東支部コロナ支援委員会を立ち上げました。しかし、新しい卒業生の名簿がなく、連絡の取りようがありません。まずは、毎年開催してきた新人歓迎会に出席した学生へ一斉メールを発信しました。最初に連絡が来たのは「マスクが欲しい」という学生から。続いて「一月頃からアルバイトが無くなり生活費を切り詰めている」という子も。これらはすぐ動ける近隣の同窓生が行動して支援。

メールのほか、同窓会員限定のフェイスブック(全国の同窓生一〇〇〇人余が登録)にも五月一日に困窮者を探していることと、活動資金の寄付を募集する投稿を載せました。続けて同窓生の会社でマスクが大量にあること、アルバイトの募集も投稿。合わせて関東支部のホームページとツイッター(フォロワーは約四三〇人)でもたびたびメッセージを発信し続け、更にフェイスブックには後藤会長が出演し、活動の説明と支援のお願いをする動画を投

稿しました。
手探りのスタートだったにも関わらず、活動開始約二週間で、寄付は全国から八十三件、一六〇万円が集まり、支援は七人。予想より支援要請が少なく、活動が伝わっていないという焦りを感じていたそうです。

▼地元メディアにも取り上げられる

そうした中、五月十七日、盛岡タイムスにこの活動が掲載され、十九日には盛岡のNHKのニュースでも取り上げられました。後藤会長の「遠慮なく申し出て欲しい」という映像メッセージが伝わり、寄付は五月下旬には二〇〇万円を超えました(最終的にはべ一四五件、二六〇万円)。

最も大変な環境になっていると思われる新卒生からの支援要請が無いこともあり、六月の新人歓迎会を中止する連絡する葉書には、親にも知ってもらいたいためコロナ支援活動を追記し、親元へ発送しました。

▼これまでとこれから

六月下旬から新卒生と連絡がつき始めました。これまでの支援は二十七件。対象は大学生、大学院生、新社会人、浪人生にまで広がり、関東在住者以外にもいます。困窮者から連絡が入ると、会長と事務局の二人がリモートで面談を行い、支援内容を決めます。具体的には、食料・家賃・生活費の支援、アルバイトや就職の斡旋などです。

面談すると、上京したがリモート授業なので盛岡に帰りたいけれどコロナ感染者ゼロの岩手には帰れない、居酒屋のアルバ

イトで稼ぐつもりだったが呑みに来る学生もいないので仕事も無い、など悲惨な生活の生々しい実態を知り、衝撃を受けたとのこと。

今回見えてきたのは「関東支部だけでは限界がある。できれば、地域ごとにさまざまな単位の支部を設け、相互に緊密な関係を築く必要がある。もちろん盛岡の同窓会本部を含めてだ」と後藤会長は語っています。「いざという時に駆けこめる頼りになる避難所のようなでありたい」とも。このような考えは、東日本大震災をきっかけに会員の根底に流れているそうだ。事務局は「全国の同窓生が広く繋がるネットワーク作りが必須。これから同窓会員になる若い人たちには、強くて温かい繋がりがあって安心して欲しい」と伝わることを願っています。



左：後藤 良平 (ごとう・りょうへい) 氏 (14 回生)
鵬同窓会 関東支部 会長
中：安保 亮 (あんぼ・あきら) 氏 (14 回生)
鵬同窓会 関東支部 事務局
右：山脇 浩子 (やまわき・こうこ) 氏 (15 回生)
鵬同窓会 関東支部 事務局長



▲NHK 盛岡のニュース / 2020年5月19日
「関東支部による困窮した同窓生への支援活動」



私と同窓会

下関市立下関商業高等学校
一般社団法人 下商同窓会
事務局・林 俊行

●連絡先

一般社団法人 下商同窓会・事務局
〒751-0826 山口県下関市後田町四丁目11番1号
下関商業高等学校内
TEL 083-223-4278 FAX 083-235-3778
e-mail info@shimosho.ed.jp
URL : http://www.shimosho.ed.jp



我がクラス名は、仁・義・礼・智・信・浄

明治十七年（一八八四年）創立の本校は、今年で創立百三十七周年を迎えます。公立の商業学校として全国で七番目に開校して、現存する一貫した単独商業高校として東の横浜商業高校と並ぶ歴史と伝統ある学校です。

数ある特徴の中でも、現在でも校訓代替としてクラス名が「仁・義・礼・智・信（全日制）・浄（定時制）」といった明治の後期につけられた儒教の教え（五常の徳目）を守っており、卒業生がクラス名を語る時に懐かしく笑顔で話されます。また、校歌は我が国を代表する国文学者の佐佐木信綱先生が三十代半ばに作詞された短い中にも実に味わい深いもので永年歌い継がれています。さらに商業の神様を表した校章も全国の数ある学校の中でも三番目に制定（現在の一橋大学・東京大学に次ぐ）されています。

ところで本会は、明治三十一年九月に発足して昭和二十六年八月に社団法人化、平成二十六年三月に一般社団法人へと移行申請が完了して現在に至ります。貴重な財産として同窓会館を保有しておりその管理・運営を行っていることも法人格を持っている理由の一つです。

同期会や支部会の活動も盛んで、明治・大正・昭和初期は国内や海外に二十四もの支部があり活動されておられました。現在でも国内で七支部が精力的に活動されておられます。

（株）サルトさんとは以前の日本名簿出版の時代から長いお付き合いをさせていただき、会員の皆様へのお知らせや記念行

事・甲子園大会出場時の業務では大変助かっております。特に、同窓生の絆となる五年毎に発行される会員名簿では担当者の方による的確な説明と社員の皆様の熱心な対応にいつも助けられています。

私は母校に勤務させていただき今年で四十二年目となり、来春に退職です。母校で初任から退職まで商業科の教員として勤務させていただいたことに本当に感謝しています。その感謝の気持ちとして生徒や卒業生に母校の資料として、このたび「下商に関する本 ①④⑤編」などを出版して本校図書館（万古館）や市の図書館に置かせてもらいました。それらの中に母校の宝物の紹介もしていますが、生徒たちには「一番のお宝は君達だよ」と常日頃伝えています。特に近年、国公立大学へ約二十名もの合格者や在学中に税理士試験二科目、応用情報技術者試験の合格者を輩出するなど先輩方に負けずに後輩も頑張っています。

本会は、約三万名（物故者含む）の卒業生で組織され、全国の至るところで活躍されておられます。政財界や教育・文化や運動（特に春夏通算して二十三回甲子園大会出場した硬式野球部など）面々を残された方々がたくさんおられます。事務局を担当させて頂いて役員の皆様方や全国支部の方々など多くの同窓生とお会いすることができ、改めて強い同窓生の絆を感じられる時の皆様方の笑顔は生涯忘れることなく事務局の醍醐味を感じることができ感謝しております。

卒業生の皆様方には、いつまでも母校「下商」をこよなく愛され益々活躍されることをお祈りします。教職員や生徒の皆さんには今後も輝く歴史と伝統を引き継いでもらいたいと願っています。



▲下商会館 同窓会が運営
市民の方に好評



下商同窓会シンボルマーク▶



▲下関市立下関商業高等学校・校舎全景

学びの心を育む

滋賀県立虎姫高等学校同窓会

とうきょうしすい 東京姉水会

知的刺激を通して
学びの道へのモチベーションを活性化する



▲東京大学・本郷キャンパスの赤門前

●滋賀県立虎姫高等学校と同窓会である東京姉水会は、平成二十三年（二〇二一）に東京大学に所属する有志教員との間に「東京大学連携講座」というものを立ち上げ、同年末に実施した。いわゆるオープンキャンパスとは一味も二味も違うこのユニークな取組みは、二〇二〇年で十回目を迎えたが、その間、東京工業大学、慶應義塾大学の有志教員とも連携し、三大学を巡る企画となつて、参加する生徒の学習意欲を刺激し続けているという。この企画を今日の形まで進化させ、各大学で現在も積極的にこの活動を支えている東京姉水会の方々に、活動の実際とこれからの展望を伺った。

東京三大学見学ツアーの 誕生の経緯とアウトライン

この企画のそもそものは、二〇一一年五月の東京姉水会の総会で、当時の西嶋校長から、在校生の東京の大学キャンパス見学の依頼があり、これにOBで当時東京大学（以下東大）大学院建築学教授であった高田先生が対応したことに始まります。この「キャンパス見学」は「東京大学連携講座」と位置付けられ、虎姫高校の一、二年生を対象としていました。内容は、大学で行われている授業を体感し、また東大キャンパスを見学するというものです。言うまでもなく日本の最高学府とされる東大が備える学問の雰囲気に触れることで学習意欲を刺激し、より深く将来を考えるきっかけとした、というのがその狙いです。具体的内容は東大の高田先生と虎姫高校の間で検討され、二〇一一年十月に

虎姫高校から参加対象となる生徒の保護者あてに趣意書と参加申込書を配布しました。募集の要項では、人数は十五名程度、時期は十二月末で一泊二日、訪問先は東大本郷キャンパス、生徒の負担は交通費と宿泊費で一萬五千円程度で、残りの半分程度をPTAが補助するというものでした。

初日は十一時頃に東大に到着し、十三時に高田研究室を訪問、約九十分の講義・演習を聴講、その後、夕方まで本郷キャンパスを見学しました。二日目は都内の有名建築の見学、東京駅のレストランでの東京姉水会主催の昼食会など、充実したスケジュールでした。

その後、二〇一四年から、東京工業大学（以下東工大）の藤居先生、慶應義塾大学（以下慶應大）の北居先生に順次参加してもらえるようになり、二日間で三大学のキャンパスを巡る企画となりました。これは東京姉水会の総会で出た案で、各大学の違いや特徴などを感じ取れる良い機会だということで受け入れられ、現在に至っています。この結果、スケジュールも、初日には東大と慶應大を訪問、二日目には東工大を訪ね、同大学で東京姉水会主催の昼食会を開催するのが通例となっています。このツアーには、毎回、校長先生と学部主任の先生が生徒を引率し、例年、昼食会には数名のOBが参加します。

実際の参加者の規模と参加方法

参加者は例年十五〜二十名程度です。女子が多いですね。手順としては、まず参加者を募集します。希望者が多い場合は、ツアー参加の動機など小論文を書いてもら

い選抜します。交通手段や宿の手配などは高校が旅行業者に依頼します。

一方、受け入れ側は、各大学の虎姫高校OBの教員が中心となって準備します。この企画は各大学の広報の協力も得ており、ツアーの際には大学の案内グッズなどを配布しています。更に、現役大学生にも協力してもらい、キャンパスの案内係を務めてもらっています。例えば東工大には広報サポーター制度があつて、大学広報から必要な人数の学生を派遣してもらえます。この学生はアルバイトなんですが、ツアー中の虎姫高校の生徒との雑談を含む対話が、極めて良いコミュニケーションの場を形成していると思います。案内係は通常三名ほど用意します。

十回目となる二〇二〇年のツアーは、新型コロナウイルスの蔓延により中止となりましたが、代わりにオンラインによる「ツアー」を実施しました。内容はこれまでとは大分異なります。まず日程は二日間で、三大学の説明、東工大留学促進サークルの協力による現役大学生の座談会企画、東京姉水会メンバーとの懇談企画がメ



上：東京大学の研究室での特別講義
下：東京工業大学・実習室での説明



●連絡先 滋賀県立虎姫高等学校

〒529-0112 滋賀県長浜市宮部町 2410 番地

TEL : 0749-73-3055 FAX : 0749-73-2967

URL : <http://www.torahime-h.shiga-ec.ed.jp>

姉水会 URL : <http://www.torahime-h.shiga-ec.ed.jp/information/sisuikai.html>

東京姉水会 URL : <http://www.tokyo-shisuikai.org>



左：高田 毅士（たかだ・つよし）氏（高25）

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構 安全研究・防災支援部門
リスク情報活用推進室 室長（前：東京大学大学院 教授）

中：北居 功（きたい・いさお）氏（高32）

慶應義塾大学大学院 法務研究科 教授

右：藤居 俊之（ふじい・としゆき）氏（高35）

東京工業大学 物質理工学院 教授

インです。リアルと違い、オンラインでのコミュニケーションには戸惑いもありましたが、その一方で、オンラインでは遙かに多くの人の「参加」が可能となるメリットもあります。実際、両日ともに三十名を超える参加がありました。さらに東京姉水会メンバー七名の参加した対話の中で体験談など、例年には無いメニューの導入も、他のメニューに劣らず良い刺激になりました。このようにオンラインという形式を採用したことで必然的にメニューも変化せざるを得ませんでした、それでも企画本来のコンセプトに則って関係各組織の力を結集した結果、新しい形の「ツアー」ができたのではないか、と思っております。

参加者の反応と感想

「ツアー」の後では毎回、参加した生徒から感想をもらいますが、良好なコメントが多いですね。具体的には「同じ高校で学んだ先輩からの話が聞けて貴重」、「大学キャンパスを間近に見られた」、「大学の講義室、実験室などに入れた」、「遠く東京で活躍している先輩たちからのアドバイスが良かった」などの言葉です。実際、この「ツアー」のような機会でもなければ、経験できないようなことばかりですし、まして、やっと高校生活に慣れたばかりの一年生では、大学生活のイメージなど到底湧かないことでしょう。であればこそ、高い目標と未来に広がる可能性の一端に触れることのインパクトは大きいわけですし、勉学への刺激はより強くなると思います。この一種のカル

チャーショックを体験するだけでも、わざわざ東京の三大学のキャンパスを訪問する意味は十分にあるでしょう。

また実施する側としては、東京の大学に進学する学生の数が少し増えたようにも思います。無論、この企画は、開催する三大学への入学者を増やすことが目的ではありません。あくまで大学の多様性を理解してもらうことに主眼があります。また、毎年実施している企画であっても参加する生徒の顔ぶれは変わりますから、同じ内容を行っても問題はないとも言えますが、実際には教員個人が反省・研究し、よりよくなるよう工夫しています。例えば大学が推奨する見学ルートでは、図書館などの比較的一般的な施設を巡るようになっていますが、本企画では教員それぞれの専門性を活かして、高校生が普段目にすることができないような実験装置を見せたり、また講義で実際に利用する施設、例えば慶應大なら「模擬法廷教室」などを体験してもらったりします。これは高校からの要望ではなく、受け入れる教員がそれぞれに考え行っているものです。ですので、滞在時間は毎年同じでも内容は年々良くなっていると自負しています。

東京三大学見学ツアーのこれから

東京姉水会の総会では、毎回来会される現役の校長先生と懇談し日程、内容などの検討をします。高校からは、この企画を毎年継続して欲しいという要望があります。ただ本企画の一回の効果は限定的だとも思います。加えて、今後も現在

と同様の形で実施できるとは限りません。ですので、二〇二〇年のようにその年の状況に応じて可能な実施スタイルを検討すべきでしょう。受け入れる側の負担も考慮すれば、お互いに無理のない範囲で継続することが大事だろうと思います。

この企画は虎姫高校の行事として既に定着した感があります。新型コロナウイルスの影響で、その行事が中止となったのは残念ですが、代替として行ったオンラインでの開催では、行事の全てを録画記録しました。それを、当日参加できなかった生徒たちも共有できたというのは大きな収穫だったと思います。オンライン開催では東京姉水会の若手会員の参加も多く、そうした年の近い先輩からのアドバイスはやはり刺激的で、より親しみやすいものだったようです。実際に大学のキャンパスを経験できなかったのは仕方ありませんが、これまでとは全く違う経験の中で、新しいやり方のヒントを得たかもしれない、と感じています。それでも大学の空気に直接触れることは重要ですから、早く元のツアーの形に戻ることが願っています。



▲慶應義塾図書館・旧館の前で



若手会員支援の先に

熊本県立済々黌高等学校

済々黌同窓会

若手会員への支援を通じて
今後の同窓会の発展を
より確固たるものに



●連絡先 済々黌同窓会
〒860-0862 熊本市中央区黒髪2丁目21-50
多士会館内 同窓会事務局
TEL：096-345-3002 / FAX：096-346-3225
E-mail：tashi@seiseiko-dosokai.gr.jp
URL：http://seiseiko-dosokai.gr.jp/
Facebook：
https://www.facebook.com/seiseiko.dosokai/

多くの同窓会に共通した問題として、近年の若手会員の減少がある。社会の少子化傾向に加え、価値観の多様化がその主な原因だと思われるが、済々黌同窓会では、以前から活発な同窓会運営を行い、若手会員を含め同窓会員相互の交流を積極的に推し進めているという。

決め手となる解決策が見出せないと言われている中、若手会員の参加をどう促しているのか、その取り組みの実際を済々黌同窓会の方々に伺った。

済々黌同窓会では、以前から継続的団結の維持を図るために、幾つかの仕組みを実行しています。その根幹を成すのが「学年同窓会」の存在です。これは、同窓会公式行事として、毎年、学年毎に同窓会を開催するというものです。

「成人」「卒業十周年」「卒業二十周年」など、いわゆる節目の年となる学年同窓会には、他の年の学年同窓会に比べて、より多くの同窓生が足を運びます。特に「成人同窓会」には、例年、学年の約八割にあたる同窓生が参加します。

このような節目にあたる学年同窓会に対しては、同窓会本部から開催費用の一部を助成しています。学年同窓会を行うにあたって、各学年の担当者（幹事）たちは、同級生と連絡をとり、会合を持ち、企画を考え、実際の運営に当たります。こうした活動の中で、済々黌同窓生としての繋がりを確かめ、絆を強固にしていくわけです。企画内容について、同窓会本部が意見するようないことはありません。学年同窓会とは、あくまでも、各学年の自主性が尊重される同窓会なのです。

とはいえ、例えば「成人同窓会」開催時の助成には、卒業した翌年に新成人となつて、一人前の社会人とみなされるようになる人生の節目に、済々黌と同じ時を過ごした友人たちと、懐かしい日々やその延長上にある自分が歩んできた道を振り返り、今を感じ、未来について大いに語らうて欲しいという願いが込められています。同様に、卒業十周年や卒業二十周年の同窓会への助成にも、それぞれ、而立や不惑の年齢に向かう時期に、同級生との絆を改めて感じ、更に強めて欲しいという想いが込められています。

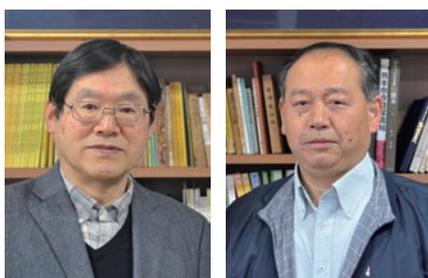
若手会員の同窓会活動の中核となるのは、四十歳未満の同窓生で組織された「青年会」です。例えば、熊本の青年会では三十九歳になる学年から会長が選出されその学年が中心となり、BBQやボウリング、忘年会などのイベントを開催しています。また、現役生・就活生を対象とした「就職OB・OG相談会」なども実施されており、若手会員同士の交流の場が積極的に作られています。このように、済々黌同窓会の若手会員たちは、青年会での同窓会活動の中で同窓意識の確認と強化を行っています。

四十歳になる年に、若き同窓生たちは青年会を卒業します。それと同時に、毎年五月に開催される「大同窓会」の当番幹事として活躍することになります。大同窓会とは、全同窓生対象の、年に一回の総会や懇親会が行われる会合の総称で、多い年は約千人もの同窓生が一堂に会する、済々黌同窓会にとって最も大事な会合です。当番幹事は、主に年末から春先

に開催される学年や地域ごとの同窓会に顔を出しては、大同窓会チケットや記念グッズを販売し、この一大行事を成功させるために奔走するのです。一見、難行苦行としか言いようのない恒例行脚を重ねながら、結果として、同窓会のタテの関係を維持、強化する良い機会になっているというのが、経験者の共通した感想です。

済々黌同窓会には特定の目的に特化したプロジェクトチームがいくつもあります。その一つに「若手会員支援プロジェクト」というものがあり、そのコアとされているのが「婚活支援」と「子育て支援」です。始動後間もない二〇二〇年には、予期せぬ新型コロナウイルスの影響で活動中断を余儀なくされました。コロナ禍収束後には、若手会員への更なる支援を精力的に行っていく予定です。

来年、二〇二二年に、済々黌高等学校は創立百四十周年を迎えます。若手会員への支援を通じて今後の同窓会の発展をより確固たるものにしていくため、済々黌同窓会はこれからも邁進いたします。



左：中村 俊雄（なかむら・としお）氏
（昭和44年卒）済々黌同窓会 幹事長
右：岡本 一隆（おかもと・かずたか）氏
（昭和52年卒）済々黌同窓会 副幹事長

育

山口県立山口高等学校同窓会
753-0070 山口県山口市白石2丁目6番34号
エスパルトコーポ山高前2-1号
TEL: 083-921-8015 / FAX: 083-921-8016
E-mail: info@yenet.gr.jp
URL http://www.yamako.gr.jp



記念館（裏側からの容姿）

わが学び舎

山口県立山口高等学校同窓会

至誠剛健の精神のもとに

沿革

文化十三年（一八一六）上田鳳陽が「山口講堂」を創立。
文久三年（一八六三）山口講習堂を「山口明倫館」と改称。
明治三年（一八七〇）山口明倫館を「山口県立山口中学校」と改称。（創立年）
明治十三年（一八八〇）「山口県立山口中学校」と改称。尋常中学科と高等中学科を設置。
明治二十八年（一八九五）「山口県尋常中学校」と改称。
明治三十四年（一九〇二）「山口県立山口中学校」と改称。補習科を設置。
昭和二十三年（一九四八）四月一日 学制改革により「山口県立山口高等学校」（新制高等学校、男子校）となる。
昭和二十四年（一九四九）四月一日 山口県立山口高等学校と山口県立山口第二高等学校が統合され、「山口県立山口東高等学校」となる。男女共学を開始。
昭和二十五年（一九五〇）四月一日 山口県立山口東高等学校と山口県立山口西高等学校の二校が統合され、「山口県立山口高等学校」（現校名）となる。
昭和三十年（一九五五）四月 山口県立山口中央高等学校を分離。
昭和四十四年（一九六九）四月一日 全日制課程に理数科を設置。
平成十二年（二〇〇〇）四月、全日制課程で二学期制・六十五分授業を開始。
平成十六年（二〇〇四）四月十五日 文部科学省よりスーパーサイエンスハイスクールに指定される。（平成十九年（二〇〇七）三月三十一日までの三年間）■

表紙写真・解説

山口高等学校記念館

山口高等学校記念館は、大正十一年（一九二二）、旧制山口高等学校（山口大学文理学部の前身）の講堂として建築されました。昭和二十九年（一九五四）、山口大学文理学部と校地を交換した際、新制山口高等学校の所有となりました。
建物は、大正七年（一九一八）に制定された高等学校令に基づき、文部省が全国各地に建てた旧制高校に共通する様式です。木造二階建、銅板葺、玄関の円柱と角柱を組み合わせたポーチや左右対称に配置された塔屋等、意匠的な配慮が払われています。内部は漆喰壁と木造の装飾を基調とし、バルコニー手摺りの幾何学的装飾や正面ステージを飾る列柱等が印象的です。

昭和四十二年（一九六七）からの校舎全面改築時に、他の旧制山口高等学校時代の校舎が解体される中、幾多の先輩たちの魂の故郷であるばかりでなく、建築史的にも貴重な存在であることから、「記念館」という名称のもとに移転・保存されることとなり昭和四十六年（一九七二）に竣工、移築当時は小体育館として利用されていました。

「記念館」は、平成十一年（一九九九）八月に造形の規範となる建物として、登録有形文化財に登録され、現在は管弦楽部の活動等、在校生の教育活動の場として活用されています。■

● 本記念館は教育機関の現役の施設です。一般には開放されておりませんので見学はできません。



▲記念館における管弦楽部のクリスマス演奏会風景

山口高等学校の卒業生

山口高等学校は、文化十三年（一八一六）に上田鳳陽が興した「山口講堂」の流れをくむ「山口県立山口中学校」を前身とする現在の山口高等学校は、この山口中学校が開校した明治三年（一八七〇）を創立年としており、令和二年（二〇二〇）に創立百五十周年を迎えた。

この歴史と伝統の下、県下の秀才が彙集し、卒業後各分野で活躍してきたことは夙に知られている。中でも、岸信介、佐藤栄作の二名の日本国内閣総理大臣を輩出したことは山口高等学校の誉とするところだ。さらに前内閣総理大臣・安倍晋三氏の父君で外務大臣を勤めた安倍晋太郎、学界では経済学者の河上肇、文学では種田山頭火や国木田独步など、まさしく綺羅星の如しと形容するにふさわしい。■

ごあいさつ

同窓会にとってのニューノーマルとは



株式会社サラト・代表取締役
福田 裕一（ふくだ・ゆういち）

●詳しくは、弊社ホームページから
URL : <https://www.salat.co.jp/>



新型コロナウイルス感染症の流行により、この一年でわたしたちの日常生活や価値観が大きく変わりました。同窓会についても、総会や同期会など、これまで当たり前前に活動されていた行事が中止・延期・規模縮小を余儀なくされたことでしょうか。ただそのような状況にあっても、知恵を出し合い、感染予防対策を十分に講じ、最善と思われる方法で同窓会活動を継続されたことは、まさに「同窓会のチカラ」であると強く感じました。

今号の特集記事では「コロナ禍において同窓会はどのように活動したのか?」、それらの活動から「今後の同窓会のニューノーマルとは何か?」を考える際の参考になればとの想いから取材を進めてまいりました。ビデオ会議ツールを活用した役員会や総会・同期会の開催、困窮する学生会や若い同窓生を経済的・人的支援する活動などについて同窓会役員や学校関係者への取材に立ち合い、改めて同窓の絆の重要性・必要性を再確認いたしました。

緊急避難的に活用したオンラインツールは、海外で活躍する同窓生もリアルタイムで参加することを可能にし、さらにこれまで参加の少なかった若い世代も気軽に参加しているなど、新たな可能性を見出しつつあります。これらのツールがもっと日常的に使われるようになれば、近い将来、リアル+オンラインによる総会や同期会などが、同窓会のニューノーマルになるかもしれません。

また活動目的の一つである「会員相互の親睦を図る」という事は、ある意味「相互扶助」と言えるかもしれません。親が子

●制服オリジナルリカちゃんに新しい仲間が増えました（お問合せは弊社まで。）



左より：山口県・山口高等学校／愛媛県・西条高等学校／岐阜県・多治見高等学校
福井県・藤島高等学校／山口県・萩高等学校／青森県・八戸東高等学校
茨城県・銚田第二高等学校

© TOMY

を守るように、先輩が後輩を守る姿勢には、その学び舎に脈々と流れる精神を感じることができました。

密を避け、ソーシャルディスタンスが求められる今の状況で、絆の糸が途切れないように活動を継続し、またみんなが安心して再会できることを強く願う同窓会のために、わたしたちサラトはこれからもサポートしてまいります。

同窓会のチカラ 2021年号／Vol. 13

(2021年4月発行)

編集・発行 株式会社サラト
本社・〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
TEL 0120-138-000 ● FAX 079-224-7746
東京支社・〒110-0016 東京都台東区台東4-18-7
シモジビル5F
TEL 0120-03-6381 ● FAX 03-3832-6389
E-mail eigy@salat.co.jp
URL : <https://www.salat.co.jp>

SALAT
Salat Corporation

サラトは昨年（令和二年）、全国百八十校の同窓会名簿を納品させていただきました。発行にご協力をいただきました同窓会・学校・会員の皆様に心より御礼を申し上げます。



左より：岐阜県・関高等学校
岐阜県・岐阜北高等学校
群馬県・桐生女子高等学校

